

## 本当にピンチはチャンスなのか

香芝市立香芝北中学校 一年 石橋 南実

まさに今、世界中がコロナウイルスの脅威にさらされ、ピンチに陥っている。変異を繰り返すウイルスに、私達はなかなか以前のような生活にもどれないでいる。

しかし、そのような中でも、ワクチンや治療薬が開発され、さらには、新しい生活様式を取り入れることにより、少しずつ前に進んでいるのである。人間の知恵が、前に進むチャンスを与えたのだ。

とは言っても、本当に、どん底にいるときに「ピンチはチャンス」とはげまされても、素直に受け入れることができるのだろうか？

そもそも、この言葉はどういう意味なのか。

ピンチとは追い詰められた苦しい状態のこと。一方、チャンスは物事をするのに良い機会、好機を意味する。つまり、「ピンチはチャンス」とは、「追い詰められた苦しい状況こそ、新たなことをスタートするのに絶好の機会」ということを表しているのだ。

しかし、この言葉通りに受け取ってよいのだろうかと疑問に思ってしまうのだ。

ここで、この疑問の前に、「ピンチはチャンス」と似た言葉の意味として、「禍いを転じて福と為す」がある。この言葉の意味は、「わざわざ降りかかっても、それを逆に利用して、幸せになるようにとりはからう」ということだそうだ。つまり、わざわざを、うまく変えて、しあわせになるように取り計らうのだといっている。

このことから、「ピンチ」の状態だけでは、「チャンス」とはならないのである。

ピンチはやっぱりピンチで、自ら考えてとる行動がチャンスへと導いてくれるのだ。ピンチはチャンスだが、好機にするのは自分自身だといえるのではないだろうか。

そこで、ピンチをチャンスに変えるために、まず必要なことは何かと考える。当然、ピンチを解決することだ。ピンチの原因となった問題を解決するためには、原因を明らかにする必要がある。もしかしたら普段から何となく感じていたことかもしれない。

例えば、最近の定期テストでのことだ。数学のテストの点数が悪くて、ピンチ到来。ピンチはチャンス、次のテストで挽回すればいいと軽く考えていたが、母に、なぜその点数になったのか考えなさいと言われ、あることに気がついたのだ。このピンチを解決するには、ピンチを放っておいたらだめだ。もう一度問題を解き直してみたり、わからないところは先生に質問してみたりすることがきっと好転へのチャンスにつながることに気づいたのだ。

このことから、私は自分自身のピンチにしっかりと向き合い、必要なら恥ずかしからず周りの人に助けをもらいながら、地道にピンチをチャンスに変えていこうと思う。反対に、ピンチで困っている人がいたら、そっと寄りそえる人になりたい。

ピンチを乗り越えた先に、「ピンチはチャンス」と言える私がいるのかもしれない。